

埼玉県の入試について知ろう

入間市教育委員会
家庭教育応援通信
2025年1月



こんにちは こちらは入間市教育委員会です

この家庭教育応援通信では
子育てに必要な情報を皆様にお伝えしていきます。

今回は
埼玉県の公立高校入試について
これまでの制度の変遷や
今後の変更点などについてのお話しです

ここでの情報は令和6年10月時点での情報です。

今後の入試詳細については、各中学校からの説明をお聞きください。



入間市マスコットキャラクター
「いるティー」

埼玉県の公立高校入試制度とは

埼玉県の公立高校の入試制度は、これまで何回か変更されています

保護者の皆さんの頃とは違うこともあります。入試制度の移り変わりを知ることで、対策も浮かびやすくなるでしょう

公立私立の違い、入試制度の移り変わり、さらに令和8年度以降の変更予定にも触れていきます



そもそも、公立と私立って？

公立高校には、県立高校と市立高校の2種類があります
私立高校は、埼玉県内や東京都内を受けることが多いようです

公立高校（県立・市立）

- ・ 比較的近くにある
- ・ 学費が安い
- ・ 内容は学科による違いはあるが
だいたい共通している

私立高校（県内・都内）

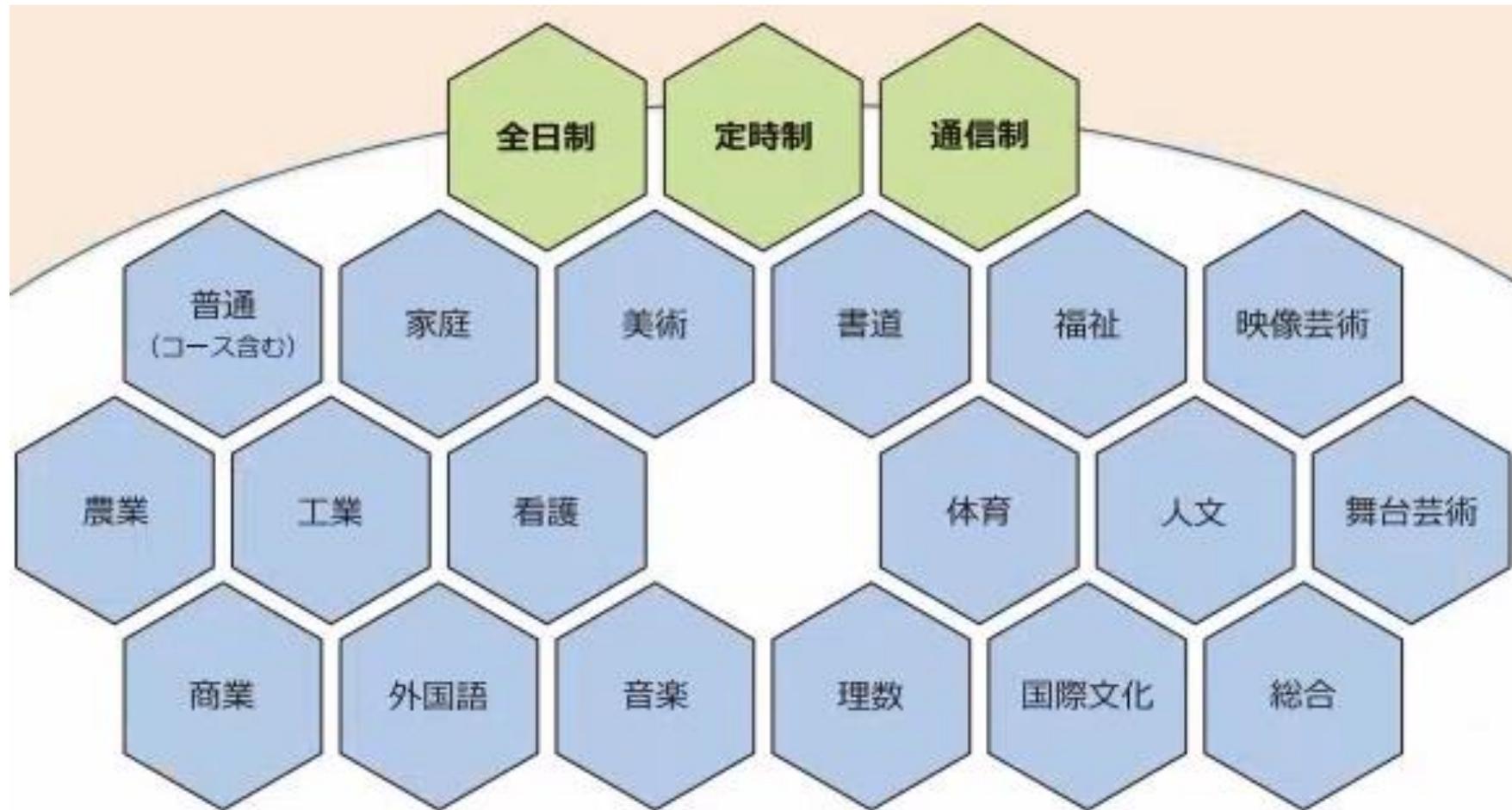
- ・ 近いとは限らない
- ・ 学費がかかる
- ・ 創立者の意向により学校
ごとに特色がある

この他に国立高校、高等専門学校、企業内高校等があります。

公立高校の課程と学科

- 課程**
- 全日制** 毎日 5 ～ 6 時間で週5日が多い 原則3年間
 - 定時制** 昼間部/夜間部、Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ部で異なる 原則4 (一部 3)年間
 - 通信制** 自宅での自主学習と年数回のスクーリング(登校)
- ※通信制の場合、レポート作成を支援する私立のサポート校があります。(形の上では両方に在籍になります)
- 学科**
- 普通科** 国数地歴公民理 (物理化学生物地学) 外国語 (英) が中心
 - 専門学科** 農業・工業・商業・家庭・外国語・理数などの専門教科
 - 総合学科** 幅広い選択科目から生徒が進路希望に基づき自分で選択

公立高校は様々な学科があります



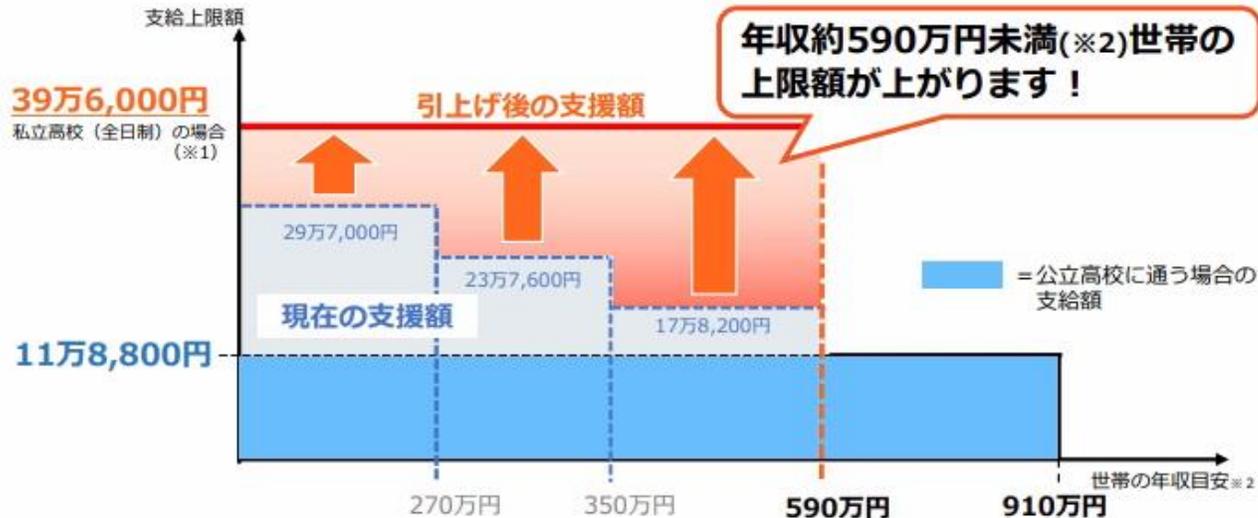
私立高校の授業料支援制度があります

令和2年4月から

私立高校授業料実質無償化

がスタート！

高等学校等就学支援金（返還不要の授業料支援）の制度改正で、私立高校等に通う生徒への支援が手厚くなります！



学費について、令和2年から私立高校の授業料支援が始まっています。

授業料の支援なので、その他の経費は学校ごとに確認する必要があります。

これまでの入試制度を見てみましょう

平成5年（1993年）までは次のような日程でした

- 2月上旬 県内私立高校入試（3教科）
- 2月中旬 都内私立高校入試（3教科）
- 2月下旬 公立高校入試（5教科）

平成5年までは、公立高校が第1志望の場合、不合格だったときに備え、まず、県内私立高校あるいは都内私立高校を受けておく、という生徒が多くいました

当時（平成5年まで）の受験制度

公立高校…受検できるのは**1校のみ** 入試問題は全県で同じ

私立高校…（定員確保のため）学校独自の優遇措置あり

単願：第1志望なら、必ず入学する条件で**ほぼ合格**

併願：公立高校など他に**第1志望があっても受験できる**

当時の進路指導では、業者テストを校内で実施していて、その結果（偏差値）をもとにして担任が生徒・保護者に助言していました

寄せられた批判への埼玉県の対応

この**偏差値**をもとに受験校を教師が助言することに対し
て、「輪切りだ」といった批判の声があがりました



その結果、埼玉県は、業者テストの結果を教師が使用することを禁止しました

そして、脱偏差値として、新たに**公立推薦入試**（面接＋調査書で選考）を2月上旬に行うと発表しました

偏差値
禁止



私立高校の反応

推薦入試の導入は私立高校に**衝撃**を与えました
「私立入試より前に学力試験なしで?!！」



公立推薦入試は全体の2割という狭い枠でしたが受検者が殺到しました

そこで私立高校は、定員確保策として、公立推薦入試より早く**1月に推薦入試を設定**しました
この時から私立の推薦の出願時期が早くなったのです

私立の入試制度が複雑化

さらに、ある私立高校が「併願推薦制度」を設定しました。すると、推薦ながら他校も受験できると志願者が大幅に増加しました。

翌年から他の私立高校も独自の入試制度を設けるようになった結果、**私立高校の入試**が非常に**複雑**になりました。

特待生推薦 単願推薦 A・B 併願推薦 I・II 校長推薦
自己推薦 文化・スポーツ推薦 一般入試、など

制度の仕組みや推薦の基準（通知表の合計点など）を知るために、入試説明会に行くことが必要になりました。

私立は親子で事前相談に行く時代

私立高校では業者テストや学校の成績をもとに事前相談（合格の可能性の判断）を行う学校が多くなっています

見学会や体験入学に参加して学校の特色を知る



説明会に参加して入試情報(推薦基準等)を収集する



事前相談会で担当者から我が子の合否の可能性を聞く



中学校に結果を伝えて書類を作成してもらう

公立入試の移り変わり

その後、さらに公立高校の入試制度が変わりました

平成15年 調査書の評定が絶対評価へ

平成16年 通学区を廃止（県内どこからでも受検できる）
調査書を開示

平成17年 推薦入試に学力試験を導入し前期後期入試へ変更
前期（面接、総合問題）後期（5教科、面接）

平成22年 各教科の配点を40点から100点に（500点満点）

設問数、記述問題が増加、一部で英・数の選択問題

平成24年 前期後期入試を廃止して1回に

現在の入試日程

公立入試は元に戻った形になりましたが、私立の推薦入試は1月のまま、また入試制度も複雑化して今に至っています

1/22～ 県内都内私立推薦入試

2月上旬 県内私立一般入試

2月中旬 都内私立一般入試

2月末 公立入試（5教科学力検査、一部面接・実技）

公立第一志望の場合、10月1日及び12月15日実施の進路希望調査の結果（公立高校の入試倍率）を参考にしながら、必要に応じて私立入試に備えることとなります。

現在の公立入試制度

入試日 2月末 (1回に限り志願先変更可能)

学力試験 国語・数学・社会・理科・英語
一部で英語・数学で難度の高い学校選択問題を使用
理数科・外国語科・人文科・国際文化科等で傾斜配点

調査書 学習の記録 (各学年の9教科の成績)、特別活動の記録
(学級活動、生徒会活動、部活動、学校行事など)、その他
(特技、検定、資格、ボランティア等)
※事前に学校から記載内容の確認があります

面接・実技 一部で実施

公立高校の選抜基準は 事前に公開されています

各公立高校の選抜基準は7月初めに県のホームページに一覧が掲載されます

見ておくべきポイントとしては

- 学力検査重視か、調査書の記録重視か
- 調査書は3年間重視か、3年の成績重視か
- 1次選抜、2次選抜等での成績の扱い方
- 特別活動の記録で重視する項目
- 資格や学校外の活動などになるでしょう

令和7年度入学者選抜																									
選抜の基本方針																									
(1) 学力検査の結果を調査書の記録より重視し選抜する。 (2) 調査書の「特別活動等の記録」について部活動・生徒会活動等に積極的に取り組んだ者の選抜に配慮する。																									
選抜資料																									
○学力検査の扱い	…………… [500点]																								
○調査書の扱い	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>学習の記録の得点</td> <td>(1)</td> <td>(1)</td> <td>(3)</td> <td>……………</td> <td>(225点)</td> </tr> <tr> <td>特別活動等の記録の得点</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>……………</td> <td>(65点)</td> </tr> <tr> <td>その他の項目の得点</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>……………</td> <td>(45点)</td> </tr> </table> } …… [335点]		1年	2年	3年			学習の記録の得点	(1)	(1)	(3)	……………	(225点)	特別活動等の記録の得点				……………	(65点)	その他の項目の得点				……………	(45点)
	1年	2年	3年																						
学習の記録の得点	(1)	(1)	(3)	……………	(225点)																				
特別活動等の記録の得点				……………	(65点)																				
その他の項目の得点				……………	(45点)																				
○その他の資料	なし																								
一般募集																									
●第1次選抜（60％を入学許可候補者とする）																									
（各資料の配点）	<table border="1"> <tr> <th>①学力検査</th> <th>②調査書</th> <th>③その他</th> <th>④合計</th> </tr> <tr> <td>500点</td> <td>335点</td> <td>実施しない</td> <td>835点</td> </tr> </table>	①学力検査	②調査書	③その他	④合計	500点	335点	実施しない	835点																
①学力検査	②調査書	③その他	④合計																						
500点	335点	実施しない	835点																						
●第2次選抜（38％を入学許可候補者とする）																									
（各資料の配点）	<table border="1"> <tr> <th>⑤学力検査</th> <th>⑥調査書</th> <th>⑦その他</th> <th>⑧合計</th> </tr> <tr> <td>500点</td> <td>215点</td> <td>実施しない</td> <td>715点</td> </tr> </table>	⑤学力検査	⑥調査書	⑦その他	⑧合計	500点	215点	実施しない	715点																
⑤学力検査	⑥調査書	⑦その他	⑧合計																						
500点	215点	実施しない	715点																						
●第3次選抜（2％を入学許可候補者とする）																									
第1次選抜における合計得点の一定の順位者を対象に、調査書の特別活動等の記録の得点、その他の項目の得点で選抜する。																									
調査書の扱いの詳細																									
【特別活動等の記録の得点（65点）】																									
○学級活動・生徒会活動 下記の内容について、活動の状況や実績に応じて得点を与える。 生徒会長、生徒会副会長、書記、会計、各種委員会委員長、体育祭・文化祭等の学校全体の行事の委員長、学級委員など、その他評価できるもの																									
○部活動 次の区分による活動実績を評価し、実績に応じて得点を与える。なお、主催団体、規模等を考慮する。 運動部 全国大会出場、関東大会出場、県大会出場など、各部部长など 文化部 全国大会出場・出場、関東大会出場・出場、県大会入賞など、各部部长など																									
【その他の項目の得点（45点）】																									
○総合的な学習の時間の記録 特に顕著な活動がある場合に得点を与える。																									
○資格取得等 英語検定・漢字検定・数学検定の3級以上、その他資格を評価する。																									
○校外の活動 校外の活動（地域のクラブ活動など）において優秀な成績を修めたものを評価する。																									
第2志望	なし																								
その他	なし																								

体験入学や説明会を活用しましょう

今は、私立高校だけでなく、公立高校も体験入学や学校説明会を開催しています（夏休み～2学期）。

- ホームページで事前にチェック
- 種類を確認（学校説明会、学校見学会、オープンスクール、体験入学、部活体験など様々な形式あり）

希望の学校については、よく確認しましょう。

電子出願ができます

県内全ての県立高校及び市立高校で、インターネットに接続できる環境（パソコン・スマートフォン・タブレット端末）及びプリンターを使用して出願等の手続きができるようになりました。

- 氏名、住所を登録し、志願者情報を入力
- 手数料納付（クレジット、コンビニ、またはペイジーで決済）
（調査書は中学校が作成し、郵送または本人が持参）
- 志願先変更（書類は各高校に持参）
- 受検票印刷
- 入学許可候補者発表の確認



令和 8 年度入試の変更点

令和 6 年度の中学 2 年生が対象です。

部活動の記録の記入箇所が、「特別活動の記録」から「その他」の項目になります。

※部活動の地域への移行に対応したもの

※各項目の扱い方については、各高校の選抜基準として令和7年5月以降に発表予定

さらに令和 9 年度には大きな変更があります。

令和9年度入試の変更点

令和6年度の中学1年生が対象です。

- 受検生全員を対象に自己評価資料の提出、面接を実施する。
- 調査書は各教科の学習の記録（9教科5段階）、総合的な学習の記録を基本とする。

現行の調査書にある特別活動、出欠席、その他は記載しない。受検生はそれらを含め、力を注いだことや努力をしたことを自己評価資料に書くことができる。

- 募集定員の一部(20～80%) または全部を「特色選抜」で選抜できる

学力検査、調査書、面接及び特色検査（実技検査または作文）について、その特色に応じて各高校が定める方法によって得点を算出し、選抜する。学力検査の得点を、傾斜配点することもできる。

(様式)

※

自己評価資料

志願先 高等学校	立	高等学校	学科等	科・系・コース (部)
自己PR 志願者氏名		出身校	立	中学校

1 これまでの自分の体験を振り返り、力を注いだことや努力をしたこと、高等学校入学後や将来取り組んでみたいこと、自己PRなどについて、自分の考えを書いてください。

受検生が、志願先高等学校の選抜実施内容「面接」の「学校独自項目」を転記する。

2 学校独自項目

受検生が、「学校独自項目」について、記載する。

<自己評価資料>

受検生が自分で記入し、面接の補助資料になる

これまでの自分の体験を振り返り、力を注いだことや努力したこと、高等学校入学後や将来取り組んでみたいこと、自己PRなどについて、自分の考えを書く

特色選抜実施校では、独自の項目を設定することもある（その場合は、下段の「2 学校独自項目」に記入する）

様式1
令和9年度入学志願者調査書
(様式1)
学習の記録等通知書

志願先		高等学校		受験番号	
第3学年	級	第	学年		
性別	生年 月日	平成	年	月	日生
	卒業年月日	平成	年	月	卒業

1 各教科の学習の記録	教科名	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語	合計		
	評定	1年											
		2年											
		3年											

2
総合的な学習の時間の記録

備 考

令和9年度埼玉県公立高等学校入学志願者のために作成した調査書の内容は、上記のとおり相違ありません。
令和 年 月 日 学校名
校長氏名
記入責任者
氏 名

*様式1として利用するときは、「学習の記録等通知書」及び下段の「令和9年度…調査書の内容は、」を
で消すこと。また、様式2として利用するときは、「令和9年度入学志願者調査書」を
で消すこと。

< 調査書 >

中学校が作成する
各教科の学習の記録（3年間の9教科5段階評定）、総合的な学習の時間の記録のみ記入

詳細は、埼玉県教育委員会「令和9年度埼玉県公立高等学校入学志願者選抜に関する情報」をご覧ください。

常に情報収集を

今回は、県公立高校の入試制度を中心にお伝えしました
私立高校の入試が様々であることはご理解いただけたと思いますが、公立高校も都道府県により制度が異なります。

中学校では、保護者会で説明したり、進路だより等作成して情報提供をしたりしている学校が多いです

聞き逃さずに情報収集に努めましょう



アンケートへのご協力をお願い

本通信の今後の向上のため、下記のURLをクリックしてアンケートにご協力ください

<https://forms.gle/pNMcqZsFSr3YqWxG6>

ありがとうございました

